

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立中学校給食検討委員会(第4回)				
事務局 (担当課)		学校保健課 電話042-769-8283(直通)				
開催日時		平成27年3月17日(火) 午前10時~12時				
開催場所		相模原市役所第2別館 5階 教育委員会室				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	4人(学校保健課長、他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) モデル事業の実施結果について (2) 中学校給食検討委員会答申書(案)について (3) その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

- 1 開会
- 2 あいさつ
吉岡会長あいさつ
- 3 議題

事務局より資料の説明を行い、質疑・意見交換を行った。

(1) モデル事業の実施結果について

参考資料の完食率調査結果をみると、他と比べて低いクラスがあるが何か要因があったのか。

低い要因は、例えば前の授業が体育や他の教室での授業で時間的な問題があったのではないかと。

配膳室の巡回時に喫食後のランチボックスを見てみると、完食していない生徒の傾向は、メインのおかずだけでご飯を食べ、他のおかずには手をつけていないことが多い。

栄養バランスを考えた献立なのに残してしまったら意味が無い、栄養士の立場で解決策として何か考えられるか。

小学校にいた時の経験から、給食時間中の声掛けが大事だと思う。

見た目で手をつけない生徒が多いと思う。周り(担任等)から「食べてみればおいしい」等、声が掛ければ食べると思う。

汁物が付いたことによって食べやすくなったと思う。評判も良かった。容器の蓋が硬かったことにより、少しこぼしてしまった事もあった様だが、大きな事故は無かった。

(2) 中学校給食検討委員会答申書(案)について

伊と委員より、平成25年度に行ったアンケート調査結果を解析した結果について説明あり。

- ・給食時間が延びると、喫食する生徒が増えるということがわかる。
- ・自由記載を解析すると、試食会に参加していない人の方が、栄養等について気にしている。試食会の参加者を増やすことで、喫食率の向上につながると考えられる。

答申書にこの解析結果を記載したらどうか。

提案にある短期の方策の食育については、生徒・保護者・教職員を分けて記載した方が分かりやすい。

残量の多さについて、「おいしいよ」など、一緒に食べる先生の声かけが大切。親として反省する部分もあり、例えば「白菜の塩麹和え」といったものは家庭ではなかなか調理しない。食べたことのないものを食べようと思う子どもはそう多くなく、見た目だけで食べないこともあるのでは。保護者として協力できることは、試食会を開催することや、親として、嫌いなものには箸をつけない、といった食習慣やマナーを改善するよう、子どもに働きかけなけ

ればいけないと思う。栄養素摂取の大切さをアピールしてほしい。

アンケート調査の中で、教職員の回収率が低いことがとても気になる。給食に関する教職員の理解と協力が必要である。また、中学校に入る前の試食会がとても重要だと考えている。個人的にも、この検討委員会の中で、そして試食会をとおして栄養素摂取の重要性を初めて知った経緯もあり、そのように感じている。

食事は、最終的には親の責任であると考えている。そういった意味で親への教育も必要になってくるのではないかと。子どもたちの体と心を作る大きな要素は食べ物で、つい目先の点数がつく学習に注意が行きがちだが、実は学習のレベルを上げるためにも、バランスのとれた給食、食育が大切だと考えるようになった。試食会については、平日だけだとどうしても参加できる人が限定されてしまうので、土曜参観といった機会に、給食一食分の試食会でなくても、一口ずつの試食ができるようなスタイルで、中学校給食の味をみてもらうのもひとつの方法ではないか。

中学校給食への誤解があると思う。「おいしくなさそう」「嫌いなものがある」など、こういった風評を払拭するためにも、入学前の試食会は重要である。払込など事務的なことも伝えられる。また、意外と栄養素摂取に関してあまり知らない保護者は多いので、親に対する食育も必要だと思う。

一般の人は、給食は小学校の給食をイメージしている。秋に開催された食育フェアといった、一般市民が参加できる事業の中で中学校給食をPRすべきだと思う。市民への啓発が大切である。また、将来的には栄養バランスのとれた給食を、全ての子どもが食べられるようにしてほしい。

栄養バランスが整い、子どもたちに食べてもらいたい給食であることはよく理解している。ただ、残食をみるとわかるように、食べなければ意味がない。何を食べたいか、を子どもに聞くのではなく、成長期にある子どもたちに何を食べさせるべきなのか、何を食べさせなくてはいけないのか、という視点を持つべきである。それには、給食を含め、食に関する情報を、学校からも家庭へ発信する必要がある。また、モデル事業については、汁物の実施をもう1ヶ月行った方がより喫食率への影響などを的確に捉えられたのではないかと思う。

試食会は興味のない人にも参加してもらいたいので、ぜひ土日の開催を希望する。特に6年生に食べてもらうことは、効果がある。教員の喫食率が低い。教員自身も意識改革をしなければいけないと思う。

ホームページで給食の動画を流すことは出来ないか。中学校給食はこういう工夫をしているなど、給食のことが分ってもらえる。

給食のことを理解することは、将来の食に対する関心が高まる。

何度かデリバリー給食を食べた感想としては、おいしいし、満足いく内容になっていると思う。学校給食センター校では、給食は教育の一環であり、先生が給食を食べないこと自体が不思議な感覚がある。苦手な献立であっても、特に担任は残すことを重く受け止めている。将来的に、学校給食センターの給食も視野に入っているが、津久井学校給食センターは、昔

はもっと多い食数を作っていたのではないかと思うので、施設の老朽化等課題はあると思うが、既存の学校給食センターも活用するなどして、実現できるのではないか。

給食に限らず、食育の観点から言えば、中学校内の保健委員会においても学校保健課管理栄養士の助言で生徒の意識が高まり、カルシウムの必要性など他の生徒にも得た情報や知識を伝えていた。そうしたアプローチも非常に重要である。給食に関しても、例えばこのおかげを食べなかったら栄養バランスはこうなる、といったレーダーチャートなどを示して指導するのも効果的ではないか。教員にも給食への理解には温度差があり、管理職として、教員にも働きかけをする必要性を感じる。

答申書を提出して終わるのではなく、今後につながるようになっていけばいいと思う。

自宅等でもう一度見直していただき、修正意見等がありましたら、事務局まで連絡をお願いします。

【次のことについて、修正・追加を行う。】

- ・提案部分の「食育の推進」について、構成を見直す。
- ・給食時間、試食会の開催について、解析結果も載せる。
- ・試食会の開催については、例示として土曜参観での開催や、新入生保護者を対象とした開催等、開催方法等についても追加する。

最終的な答申書の内容確認は、会長及び副会長において行い、提出前に委員に送付する。

市への提出は、会長及び副会長で行う。

(3) その他

特になし

4 閉会

以 上

相模原市立中学校給食検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉岡 有紀子	相模女子大学栄養科学部	会 長	出席
2	伊与 亨	北里大学医療衛生学部		出席
3	小嶋 理史	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
4	小関 和代	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
5	堺 千里	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
6	水野谷 珠世	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
7	高原 麻美	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
8	黒瀧 直行	新町中学校	副会長	出席
9	北村 正弘	青野原中学校		出席
10	小泉 勉	旭中学校		欠席
11	山本 真	相武台中学校		出席
12	朴木 昇	相陽中学校		出席
13	高橋 純子	城山学校給食センター		欠席
14	高橋 陽子	公募		出席